

空白の「奈良刑務所時代」 埋める貴重な本

新刊「奈良刑務所物語」

合評会開かれる



新刊『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』合評会出席の皆さん。前列左より、溝川悠介、山内進吾、田辺実、中森功、在賀知子、白川嘉秀、後列左より、杉本英雄、松永洋介、寮美千子、吉田恒俊、竹末勲、岡田雅一氏。

2021年4月24日、新刊『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』合評会が開かれました。
合評会では、田辺実同盟県本部会長がいさつ(要旨別項)のあと、「奈良刑務所の歴史の中で、奈良刑務所時代のことを明らかにする本として時宜にかなった本となりました。」(松永洋介さん)など、出席者から発言していただきました。(詳細は4ページより)



奈良県版

No. 34

2021年6月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
奈良県本部
〒630-8442
奈良市北永井町 277-3
田辺実気付
☎ 0742-61-7194
振替 0990-2-209460
治安維持法国賠同盟
奈良県本部

われわれの 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
 - 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

コロナ禍で会場が確保できず県本部総会を延期

5月度の県本部理事会で 当面の方針を決定

第34回県本部総会は5月15日に行う予定でしたが、コロナ禍の蔓延のため、延期の措置をとりました。5月13日開いた県本部理事会は、総会延期に伴い、第34回県本部総会の「決議案」として用意してきたものを検討、「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部5月度理事会決議」として採択し、2021年度の方針とすることを確認しました。

また、「第34回県本部総会」が開催されるまで、現県本部理事会が引き続き県本部の活動の推進に当たることを確認しました。さらに、次期県本部役員体制については、次期県本部役員選考委員会(責任者加藤

宜之事務局長)が役員選考を行い、県本部理事会に報告することを決定しました。

増本一彦中央本部長から、県本部総会(延期されました)への、メッセージを寄せていただきました。要旨を紹介いたします

同盟運動の前進のために

さらに「ご」尽力を

2021年5月15日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

中央本部長 増本 一彦

同盟奈良県本部2021年度総会に、全国の仲間たちを代表して、心から連帯の「あいさつ」を申し上げます。

劇映画「わが青春つき るとも 伊藤千代子の 生涯」の製作運動す む

伊藤千代子役は、新人・井上百合子さんに決まり、この秋にはクランクイン。22年3月完成めざし、劇映画「わが青春つき」とも伊藤千代子の生涯」の製作運動が進んでいます。

国賠同盟奈良県本部として独自に、映画「伊藤千代子の生涯」の製作のための資金の拠出を呼びかけてきましたが、これまでに10人から合計10万円にのぼりました。差し当たってこの分を「製作を支援する会」に届け



新人・井上百合子さん

奈良県同盟の皆さんは、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の困難な中でも県都奈良市に支部を設立し、治安維持法犠牲者等の奈良刑務所の獄外・獄中における平和と民主主義のための闘いと抵抗を顕彰する出版活動や刑務所保存運動に取り組んでこられました。

これらの活動は、奈良県にとどまらず、治安維持法時代の国中の人民の平和と民主主義の闘いと抵抗の歴史を現代に受け継ぐ役割を果たすものであって、同盟運動にとつて非常に意義のあるものであります。こうした奈良県同盟の会員の皆さんの活動に心から敬意を表するものであります。(中略)

新型コロナウイルスの感染拡大は変異株の拡散によって、私たちの健康に大きな脅威となっています。皆さんが呉々も健康と安全にご注意くださって、同盟運動の前進のためにさらに「ご」尽力くださるよう心から願って、ごあいさついたします。

ました。県同盟は、奈良県でも実行委員会
の結成めざし取り組みを強める方針です。

「教科書採択に「黒塗り」 いらぬ」裁判

第2回公判開かれる

奈良市の教科書採択で、市民が書いたアンケートの内容を「黒塗り」で提出されたことを違法として、奈良市を相手取って提訴した裁判の第2回公判が5月27日奈良地裁で行われました。

この日の公判では、被告奈良市側が、アンケートの内容を非開示にしたことを正当化する、反論書を提出しました。

これに対して原告の奥野つね子さんは、7月20日に行われる第3回公判で反論する予定です。

第2回公判には、「教科書採択に「黒塗り」はいらぬ」奈良市民の会側から12名が傍聴しました。国賠同盟からは田辺実会長も傍聴しました。

次期県本部総会まで、現行の理事会が県同盟の活動の推進に当たります。よろしくお願いたします。

奈良県本部役員・顧問

◎会長

田 辺 実

◎事務局長・会計兼務

加藤 宣之

◎事務局次長・県調査部長兼務

中 森 功

◎常任理事

伊藤恵美子▽稲月典澄▽奥西 正史▽

越山のぶ子▽杉本 英雄▽白川 嘉秀

▽藤本みや子▽松下 光人▽向川 征

秀▽山内 進吾▽山田トシエ

◎理事

小林 照代▽白川健太郎▽山口 裕司▽

宮本 次郎▽米本 佳由

◎会計監査

尾口 五三▽高橋 重明

◎顧問

溝川 悠介▽吉田 恒俊

「奈良刑務所物語」 合評会報告

4月24日開かれた新刊『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』の合評会では、主席者のみなさんに発言していただきました。「不屈」には、逐次出席者の発言を掲載します。今回は、本の装丁を担当した松永洋介さんと「歴史の証人」奈良監獄・奈良刑務所・奈良少年刑務所』を書いていただいた寮美千子さんの発言を掲載します。

表紙は空を明るくし手に取って
もらいやすくなりました

松永洋介さん 本書の装丁を担当しました。出版社に「丸ゴシックでいいのか」と聞かれたが丸マルゴシックが良いと答えました。表紙は空を明るくし、手に取ってもらいやすくなりました。奈良刑務所の歴史の中で、奈良刑務所時代のことを明らかにする本として時宜にかなった本となりました。

奈良監獄、奈良刑務所、奈良少年刑務所の110年の歴史があるが、通史がない。私たちは、絵本『奈良監獄物語 若かった明治

日本が夢見たものを2019年に刊行しましたが、そこで「暗い時代」で思想犯が投獄されたことを取り上げました。
寮美千子さん その部分を読んでみます。

暗い時代
けれども振り返れば、美しい話ばかりではなかった。
悲しく残酷な時代もあった。
ギス監時代には、天理教教祖の中山みきが繰り返し投獄された。
人類の平等を唱えたためだ。

合評会への出席者は、寮美千子 松永洋介 竹末勤 岡田雅一 溝川悠介 吉田恒俊 在賀知子 白川嘉秀 田辺実 中森功 杉本英雄 山内進吾の12氏(順不同、敬称略)です

1922年(大正11)、わたしの名は「奈良刑務所」に変わった。
日本はアジア各地を植民地化し、その勢力をさらに広げようとしていた。やがて、共産主義者や、植民地主義に反対する者は「反政府的」とされ、「思想犯」として投獄されるようになる。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という
「水平社宣言」を起草した西光万吉も、そのひとりだ。
部落差別をなくす「全国水平社」を起したメンバーだった。

松永洋介さん 奈良県内には、公の図書館のうち5つの図書館には新刊『奈良刑務所物語』が購入・所蔵・閲覧に供されています。そして桜井市の図書館など4つの図書館では、いま貸し出されています。まだ、奈良県

「思想犯」たちの舎房は、ひと部屋おきだった。
たがいに言葉を交わさないようにするためだ。
自由であるべき人の心を、権力が制限し、裁く。考えを変えろと強制する。
そんなことがおこなわれていたことを、わたしはしっかりと、覚えていたい。もう二度と、そんな時代がこないように。
寮美千子・文、磯良一・絵
『奈良監獄物語 若かった明治日本が夢見たもの』(24、26ページ)「わたしは「奈良監獄」の一人称

立図書館情報館と奈良市立図書館では所蔵されていません。(購入されて、処理の段階かもしれませんが)。これらの図書館でも閲

【合評会での田辺会長の挨拶要旨】

会長 田辺 実

寮美千子先生、松永洋介さんのご尽力もあり、装丁も立派で、これまでのような身内の中での普及から一般の方々が入手しやすいように市販されておられ、思わぬ人々のなかで反響が広がっています。毎日新聞の奈良版のコラムで寮先生が取り上げていただいたことなど、様々なメディアで取り上げていただいたこともあり、出版社から最初に受け取った500冊は、ほぼ完売の状況です。
治安維持法下先人がどのように闘ったかを学び、今日の闘いに生かす本として重要な役割を果たすのではないかと自負しています。

先人がどのように闘ったかを学び、今日の闘いに生かす本

同時に自己評価としては、未決勾留の先人も含め、まだまだ掘り起こしが必要だと思えます。ここに収録している方々は138名ですがそれらの人に限っても、その人たちの事績のさらなる調査・研究が必要であり、また可能な方も少なくないと思えます。今後の展望としては、裁判記録の発掘、奈良刑務所に収監された人の一層の発掘、全国の国賠同盟、学者・研究者の協力を得て調査・研究を充実させる必要があります。

奈良刑務所の保存・活用について、諸団体との共同の取り組みで、文化財としてふさわしい活用の在り方などの探求が求められていると考えています。

暗黒時代の資料を掘り起すのは大変

それを成し遂げるのは本当に素晴らしいこと

寮美千子さん 私は「歴史の証人『奈良監獄・奈良刑務所・奈良少年刑務所』」を寄稿しました。写真も提供させてもらいました。奈良刑務所時代のことが空白でしたが、『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』は、それを埋める重要な本です。大変な苦勞をされて、資料を掘り起こされました。これを、従来のように仲間内だけにとどめるのはあまりにももったいないと思います、出版社に相談しました。今日の出版業界は非常に厳しい状況ですが、後世に伝えるべき大事な内容だと引き受けてくれました。このような形で出版されたことは本当に良かったと思います。天理大学の人權問題を取り組み組んでいる先生もいい本だと即刻購入して下さいました。

奥野誠亮氏があの時代の資料を焼いてしまった。だから、暗黒時代の資料を掘り起こすのは大変だし、それを成し遂げるのは本当に素晴らしいことだと思います。

4月29日に、『第5回古都フォーラム』再び 私たちの宝 旧奈良監獄を考える』が行われます。フォーラムのビラでは「重要文化財に指定された旧奈良監獄(奈良少年刑務所)は110年の歴史を持つ存在です。ここから再出発した少年たちだけでなく、戦前の治安維持法により投獄された人々も、忘れてはならない姿です。跡地の保存・活用について一緒に考えましょう。」と呼びかけています。旧奈良監獄をどのように活かしたらいいのか、話し合います。

主催は「奈良少年刑務所を宝に思う会」、「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部」、「古都奈良の自然・文化遺産を守る会」の3団体です。私も発言します。また、田辺さんも発言されます。

権力がどんなひどいことをしたかも明らかにする、戦後少年刑務所として青少年の



白川 嘉秀

「特高月報」に記録されて居られる方々は20歳前後の若い人が多い。民主主義そして平和な社会を、そして働く人たちの生活向上のために運動に参加された方々である。組織を壊滅する目的なので、取り調べは「仲間の名前を言え」「転向せよ」ということであつたと思う。

黙秘を買った人は釈放されず刑務所へ。釈放され大学に復学された方も多い。新聞は治安維持法違反の人たちを「非国民・国賊」と報道。世間の人々の目も多くはそうであつたのかも。

家族の懇願もあつたかも知れない。「非」を認めた人も多かつたかもしれない。「折れた心」を胸の奥に抑え込み家族にも話されることなくその後の人生を過ごされたかも。またその心をエネルギーにされ、戦後の自由な社会で存分に活動された方もあつたと思う。

しかし、治安維持法の影響は戦後も保ち続けられている。「共産党はいい事を言う。支持するのはいい。しかし入るなよ」といわれませんでしたか？

更生・教育に優れた実践があつたことを含め、文化発信基地として活用することを呼びかけています。

治安維持法の時代のことは、「特別展」ではなく、常設展示を必ず実現しなければならぬと思います。そうした声を上げていきたいと思えます。

この本は、1500円でもいいと思います。が、1200円にしていたらお陰で買やすい本になっていると思います。版をかきねられるように普及に努力しましょう。

(注 4月29日に予定されていた「第5回古都フォーラム」はコロナ禍のため延期となりました。)

署名数・会員数の到達 (六月一日現在)
団体署名 ○
個人署名 一〇
会員数 四一六名
(前月比二名減)(二名死亡)

治安維持法犠牲者に対する国家による謝罪と賠償を実現することによってはじめて共産党に対する風評を払拭することができると。

しかし、国家による謝罪が実現しないものでも治安維持法犠牲者の不屈の戦い、理不尽な扱いの事実を掘り起こし明らかにすることによって、世論を変えていくことができる。

「奈良刑務所物語」はその活動の大きな成果の一つであると思えます。

(県本部調査部員)

第48回国会請願が行われる

奈良県からは2556筆を提出

5月12日、国賠同盟は第48回国会請願を行いました。この日、首都圏を中心に全国から64名が請願行動に参加、全国から寄せられた9万8千人の署名を提出。奈良

奈良県からの2556筆を提出

県からは、この一年間で集められた団体29筆、個人2、556筆を本部に託しました。

川柳

奈良の愚僧の愚妻

背負えない長年ためた老いの闇

老いの智慧ゆらりと光って消えて逝く

大和郡山支部 杉本英雄

花めぐる人の顔顔平和だなあ

命よりお金が本音かオリンピック

コロナ禍で高騰中の変異株

訃報

西川幸子さん

5月5日に逝去されました。89歳。西

川さんは、平群支部長として、県本部女性
部員として長年活動されてきました。

中田郁江さん

5月5日逝去されました。95歳。中田

さんは、橿原市議(3期)を務め、晩年は奈
良市で生活。国賠同盟員として長年尽力
されました。

お二人のご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

菅政権の無為無策のためコロナ禍は収束の兆しささえ見えません。ワクチンの接種率も世界で最下位クラスのなかで、オリンピック開催に固執する様に、国民的怒りが爆発しています。

来るべき総選挙では、市民と野党の共同で野党連合政権の樹立をめざす取り組みの強化がいよいよ重要になってきました。

5月16日に予定していた第34回県本部総会は開催することができませんでした。13日に開いた5月度の県本部理事会で、当面の方針の決定とあわせ、現県本部理事会の体制で当面の活動の推進にあたることを確認しました。同盟員のみなさんのご了解と引き続きご協力を心からお願いいたします。

新版『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』の合評会が開かれ、貴重な評価・意見をいただきました。内容が多岐にわたりますので、「不屈」で数回に分けてお伝えする予定です。ご期待下さい。

コロナ禍のなかにあっても、第48回国会請願が実施され、劇映画「わが青春つきるとも伊藤千代子の生涯」の製作運動も確実に進められています。

様々な困難もありますが、先人の奮闘と国賠同盟の果たすべき役割を思い起こし、歪められた歴史認識をただす取り組みを土台に、来年の5月の国会請願をめざす署名運動などひきつづき努力を課させることを呼びかけます。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部常任理事会